



宇野 進一 議員

# 道の駅「ごか」の売上目標額は 答 10億円を目標に



農産物直売所「わだいの万菜」

**問** 道の駅「ごか」、施設について現況は。

**町長** オープン以来、利用者、販売額等順調に推移し、農産物直売所における、地元の農産物割合が3年目にして、50%を超えました。また、固定利用者数も年々増加している状況です。

**問** 施設の課題、是正対策について。

**産業課長** 昨年の夏、室内の気温が38度まで上昇し、利用者から多数の苦情を受けました。もう一点は施設全体の混雑の対応です。対策として、圏央道ICの周辺開発や道の駅が古河市に予定され

ること等を見据えながらの対応が必要となります。

**問** レストランの御飯が評判悪い件について、工夫・改善策は。

**産業課長** 町内産米を使用していますが、道の方と今後調整をしていきます。

**問** 農産物直売所の課題について。

**町長** 生産者との手数料の問題がありました。今年度より野菜、穀物類、花卉について1%の引下げをし、また、加工品については、2%の引下げで、一歩前進と思っています。

**問** 手数料1%・2%の引下げた数字の根拠について。

**町長** 委託先である農協の判断で行っています。

**問** 町内生産出荷割合も50%を越え、農産物直売所の町の直営化は。

**町長** 直営化については今後、状況を見ながら考えていきたい。

**問** 運営について、今後の目標は。

**町長** 施設拡大については、古河市の道の駅開設、新4号バイパスの4車線化、圏央道の供用開始、さらにはインター周辺の

開発等含めて検討し、進めていきたい。

**産業課長** 商品開発は、現在ローズポークが、茨城県の特産品になっていますが、ローズポークギョウザ等も考えています。

## 問 森林湖沼環境税

理解を得られる周知は  
答 周知徹底が不十分でありました

**問** 森林湖沼環境税導入経緯現況について。

**町長** 県内の森林、霞ヶ浦を始め湖沼、河川など、更には地球温暖化の防止等、自然環境を守る対策として、県が導入した税です。期間については平成20年4月1日より、平成25年3月31日までの5年間です。なお、市町村民税と一緒に徴収される税で、既に納付通知書を配布しています。

**町長** 県として、広報誌（ひばり）、メールマガジン、新聞広告等にて周知したとありますが、全体的に周知徹底が不十分であったと思います。

**問** 五霞町でも水質汚濁がありますが、分担金の交付はあるのですか。

**町民税務課長** 今のところ県の判断が出ていません。

**問** 税の使い道について。

**町民税務課長** 自然環境保全に8億円、水質保全のために8億円、計16億円が年間で、今後5年間で80億円が予定です。また、他県の環境保全を目的とした税制度の導入状況は、全国で28都府県で、税額は一人500円から1,000円です。

